



古河機械金属株式会社

2025 年 3 月期決算説明会

2025 年 5 月 30 日

[登壇者]

3 名

代表取締役社長 中戸川 稔 (以下、中戸川)

取締役 上級執行役員 経営企画部長

今野 光一郎 (以下、今野)

経営企画部部長代理 広報・IR 課長 芥川 良平 (以下、芥川)

登壇

芥川：本日の説明ですが、まず2025年3月期決算ならびに今期業績予想ほかにつきまして説明した後、中期経営計画2025の進捗等を代表取締役社長の中戸川より説明させていただき、その後、質疑応答の時間とさせていただきます。



中戸川：古河機械金属株式会社、社長の中戸川でございます。本日はお忙しい中、当社決算説明会にご参加くださりありがとうございます。

当社は、1875年の創業以来大きな変遷を重ね、現在は機械と素材を中核とした事業を行っており、今年創業150年を迎えます。引き続き、投資家の皆様により一層ご理解いただけるよう、IRの充実を図っていきますので、どうぞよろしくお願いいたします。

決算および通期予想（連結）

P.3～19

| | |
|-----------|---------|
| 連結業績 | P.3～9 |
| 部門別業績 | P.10～18 |
| 米国関税による影響 | P.19 |

中期経営計画2025の進捗状況

P.20～32

| | |
|-------------------------|---------|
| 政策保有株式の縮減 | P.20 |
| 株主還元 | P.21 |
| 連結資金収支 | P.22 |
| アライアンス・M&Aへの投資 | P.23～24 |
| 2025年度予想と2025年度イメージとの比較 | P.25～31 |
| 経営理念体系の見直しと次期中期経営計画に向けて | P.32 |

| | |
|------|---------|
| 参考資料 | P.33～35 |
|------|---------|

△ 古河機械金属グループ / 2

本日の説明ですが、前半で前期決算および通期予想について、後半で中期経営計画 2025 の進捗状況について説明します。

2025年3月期連結決算の概要

| | | 2024年3月期 | 2025年3月期 | 増減 |
|---------------------|-----|----------|----------|--------|
| 売上高 | 百万円 | 188,255 | 201,216 | 12,961 |
| 営業利益 | 百万円 | 8,524 | 9,763 | 1,239 |
| 営業利益率 | % | 4.5 | 4.9 | 0.4 |
| 経常利益 | 百万円 | 10,384 | 9,705 | △ 679 |
| 親会社株主に帰属する 当期純利益 | 百万円 | 16,097 | 18,619 | 2,521 |

△ 古河機械金属グループ / 3

2025年3月期の対前期増減は、売上高は129億円増の2,012億円、営業利益は12億円増の97億円、経常利益は6億円減の97億円、親会社株主に帰属する当期純利益は25億円増の186億円となりました。

| | | 2025年3月期 | 2026年3月期予想 | 増減 |
|---------------------|-----|----------|------------|----------|
| 売上高 | 百万円 | 201,216 | 193,000 | △ 8,216 |
| 営業利益 | 百万円 | 9,763 | 7,000 | △ 2,763 |
| 営業利益率 | % | 4.9 | 3.6 | △ 1.3 |
| 経常利益 | 百万円 | 9,705 | 7,000 | △ 2,705 |
| 親会社株主に帰属する 当期純利益 | 百万円 | 18,619 | 5,000 | △ 13,619 |
| 年間配当金 | 円 | 70 | 70 | — |

※2026年3月期予想は、2025年5月13日公表

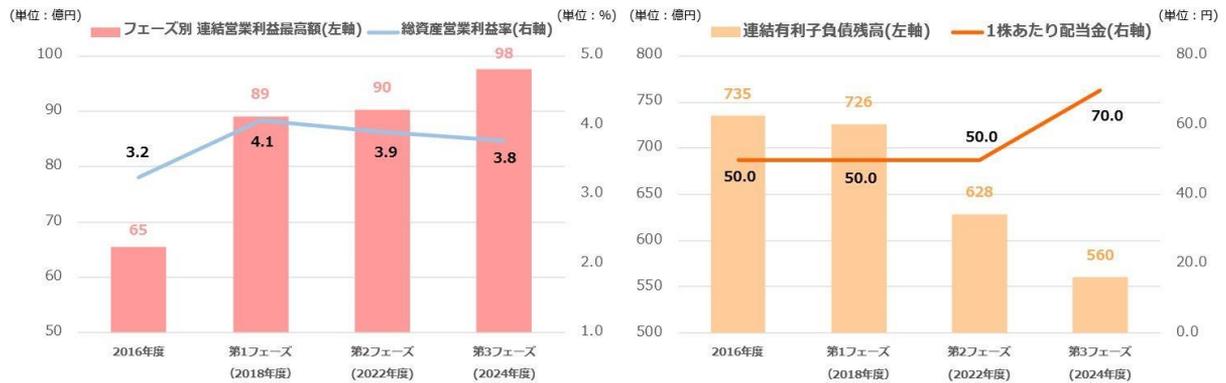
今期予想の概要です。2026年3月期通期予想の対前期増減は、売上高は82億円減の1,930億円、営業利益は27億円減の70億円、経常利益は27億円減の70億円、親会社株主に帰属する当期純利益は136億円減の50億円を予想しております。年間配当金については、今期も70円を予定しております。

『2025年ビジョン』の実績推移

(第1フェーズ：2017年度～2019年度、第2フェーズ：2020年度～2022年度、第3フェーズ：2023年度～2025年度)



- ・『2025年ビジョン』がスタートした2017年度以降、新型コロナウイルス感染症やロシア・ウクライナ戦争の長期化、インフレの進行など、経営環境や事業環境が大きく変動したものの、フェーズ進行につれ連結営業利益の最高額を更新。
- ・成長戦略を支えるため、財務体質の改善にも注力。2016年度末時点で735億円あった連結有利子負債は、事業収益力の向上のほか、資産効率改善に向けた取り組みにより2024年度末で560億円まで削減。
- ・財務体質の改善を進めつつ、株主への持続的かつ安定的な利益還元策も強化。第2フェーズまで1株あたり50円としていた配当金を第3フェーズの2023年度に55円へ引き上げ、さらに、2024年度は中間配当を実施の上、1株あたり配当金を70円へ引き上げ（予定）。



古河機械金属グループ / 5

2025年ビジョンの実績推移です。左下のグラフは、各フェーズにおける連結営業利益の最高額とROAを示しています。右下のグラフは、連結営業利益最高額を達成した年度の連結有利子負債残高と、1株当たり配当金を示しています。

2025年ビジョンがスタートした2017年度以降、経営環境や事業環境が大きく変動していますが、フェーズ進行につれ連結営業利益はそれまでの最高額を更新しています。また、成長戦略を支えるため財務体質の改善にも注力し、2016年度末時点で735億円あった連結有利子負債は、2024年度末で560億円まで削減しました。

財務体質の改善を進めつつ、株主への持続的かつ安定的な利益還元策も強化しており、第2フェーズまで1株あたり50円としていた配当金を、第3フェーズの2023年度に55円へ引き上げ、さらに2024年度は中間配当を実施の上、1株あたり配当金を70円へ引き上げを予定しています。

【経営指標】

| | | 2026年3月期 (中計イメージ) | 2024年3月期 | 2025年3月期 | 中計イメージ 達成状況 |
|----------------|-----|----------------------|----------|----------|----------------|
| 営業利益 | 百万円 | 13,000百万円程度 | 8,524 | 9,763 | × |
| ROE | % | 8%程度 | 13.8 | 14.3 | ○ |
| デット・エクイティ・レシオ | 倍 | 0.5倍台 | 0.4 | 0.4 | ○ |
| 有利子負債/EBITDA倍率 | 倍 | 3倍台 | 4.5 | 3.8 | ○ |
| 連結自己資本総還元率 | % | 3%以上 | 3.1 | 4.6 | ○ |
| 政策保有株式比率 | % | 2025年3月末までに20%未満 | 40.8 | 16.6 | ○ |
| 年間配当金 | 円 | 50円以上 | 55 | 70 | ○ |
| 自己株式取得 | 百万円 | おおむね1,500~2,000百万円 | 1,620 | 3,440 | ○ |

営業利益/ROE推移



デット・エクイティ・レシオ/
有利子負債/EBITDA倍率推移



中期経営計画 2025 で採用した経営指標の進捗はご覧のとおりです。営業利益は未達成ですが、それ以外の指標については中期経営計画の目標を達成しています。主な進捗は後ほど説明します。

■ 連結損益計算書

(単位：百万円)

| | 2024年3月期 | 2025年3月期 | 対前期増減 |
|-----------------|----------|----------|---------|
| 売上高 | 188,255 | 201,216 | 12,961 |
| 売上原価 | 160,010 | 171,660 | 11,649 |
| (売上総利益) | 28,245 | 29,556 | 1,311 |
| 販売費及び一般管理費 | 19,721 | 19,793 | 72 |
| 営業利益 | 8,524 | 9,763 | 1,239 |
| 営業外収益 | 3,655 | 2,304 | △1,351 |
| 受取配当金 | 991 | 930 | △61 |
| 持分法による投資利益 | 539 | 620 | 80 |
| 為替差益 | 1,162 | - | △1,162 |
| 貸倒引当金戻入額 | 12 | 287 | 274 |
| その他 | 948 | 466 | △482 |
| 営業外費用 | 1,795 | 2,362 | 567 |
| 支払利息 | 510 | 539 | 29 |
| 休眠山管理費 | 816 | 893 | 76 |
| 為替差損 | - | 621 | 621 |
| その他 | 467 | 307 | △160 |
| 経常利益 | 10,384 | 9,705 | △679 |
| 特別利益 | 16,092 | 17,535 | 1,442 |
| 投資有価証券売却益 | 2,659 | 17,077 | 14,418 |
| その他 | 13,433 | 457 | △12,976 |
| 特別損失 | 3,224 | 2,032 | △1,192 |
| 環境対策引当金繰入額 | - | 1,785 | 1,785 |
| 貸倒引当金繰入額 | 458 | - | △458 |
| 関連会社投融資整理損 | 2,058 | - | △2,058 |
| その他 | 708 | 246 | △461 |
| 税金等調整前当期純利益 | 23,252 | 25,208 | 1,955 |
| 法人税、住民税及び事業税 | 5,378 | 7,547 | 2,169 |
| 法人税等調整額 | 1,552 | △1,102 | △2,655 |
| 当期純利益 | 16,321 | 18,762 | 2,441 |
| 非支配株主に帰属する当期純利益 | 224 | 143 | △80 |
| 親会社株主に帰属する当期純利益 | 16,097 | 18,619 | 2,521 |

営業利益は12億円増も、為替差損益△1,783百万円
(為替差損益：今期△621百万円と前期+1,162百万円との差)により、経常利益は6億円減益に

政策保有株式の売却に伴う投資有価証券売却益

前期に古河大阪ビルの跡地その他の土地の共有持分の一部を譲渡 (13,423百万円)

オーストラリア旧製錬所跡地周辺住宅地の残留鉛汚染浄化費用の支出に備え、当該費用見込額を計上

Cariboo Copper Corp.*株式譲渡に伴う損失
(※シブラルタル鉱山の権益の25%を保有)

損益計算書です。売上高、営業利益はこの後、部門ごとに詳細に説明します。経常利益は、為替差損益の悪化等により、対前期比6億円減の97億円となりました。

特別利益は前期に固定資産売却益134億円の計上があったものの、政策保有株式の売却に伴う投資有価証券売却益170億円を計上したことなどにより、対前期増加、特別損失は今期にオーストラリア旧製錬所跡地周辺住宅地の残留鉛汚染浄化費用の支出に備えて、当該費用見込額17億円を計上したものの、前期はCariboo Copper株式譲渡に伴う損失を計上したことから、対前期では減少し、その結果、親会社株主に帰属する当期純利益は対前期25億円増の186億円となりました。

連結貸借対照表



(単位：百万円)

| | 2024年3月期 | 2025年3月期 | 増減 | |
|----------------|----------------|----------------|---------------|----------------------------------|
| 資産の部 | | | | |
| 流動資産 | 99,636 | 116,759 | 17,122 | 現金及び預金、受取手形、売掛金及び契約資産、および前払金の増加等 |
| 固定資産 | 160,241 | 140,347 | △19,893 | |
| 有形固定資産 | 92,045 | 94,796 | 2,750 | 政策保有株式の一部売却による投資有価証券の減少等 |
| 無形固定資産 | 342 | 329 | △12 | |
| 投資その他の資産 | 67,853 | 45,221 | △22,631 | |
| 資産合計 | 259,878 | 257,107 | △2,770 | |
| 負債の部 | | | | |
| 流動負債 | 51,669 | 53,114 | 1,444 | 電子記録債務、短期借入金の減少、未払金、未払法人税等の増加等 |
| 固定負債 | 74,935 | 70,420 | △4,515 | |
| 負債合計 | 126,605 | 123,534 | △3,071 | 環境対策引当金の増加、繰延税金負債の減少等 |
| 純資産の部 | | | | |
| 株主資本 | 96,549 | 108,655 | 12,106 | 政策保有株式の縮減によるその他有価証券評価差額金の減少等 |
| 資本金 | 28,208 | 28,208 | - | |
| 資本剰余金 | 2 | 2 | - | |
| 利益剰余金 | 73,046 | 82,385 | 9,338 | |
| 自己株式 | △4,707 | △1,940 | 2,767 | |
| その他の包括利益累計額 | 33,358 | 22,154 | △11,203 | |
| 非支配株主持分 | 3,365 | 2,763 | △602 | |
| 純資産合計 | 133,272 | 133,572 | 300 | |
| 負債純資産合計 | 259,878 | 257,107 | △2,770 | |

△ 古河機械金属グループ / 8

貸借対照表です。資産の部において流動資産が171億円増となりましたが、固定資産のうち、投資その他の資産での政策保有株式の一部売却による投資有価証券の減少等により、総資産は27億円減の2,571億円となりました。

負債の部において、流動負債の増加や、固定負債において環境対策引当金の増加があったものの、繰延税金負債の減少等により、負債合計は30億円減の1,235億円となりました。

純資産は、政策保有株式の縮減によるその他有価証券評価差額金の減少等により、その他の包括利益累計額が112億円減となったものの、株主資本の増加により、3億円増の1,335億円となりました。

【有利子負債】

(単位：百万円)

| | 2024年3月期 | 2025年3月期 | 増減 |
|---------|----------|----------|---------|
| 短期 | 493 | 564 | 70 |
| 長期 | 52,895 | 50,470 | △ 2,425 |
| 社債 | 5,000 | 5,000 | - |
| 有利子負債合計 | 58,389 | 56,034 | △ 2,354 |

【連結キャッシュ・フロー】

| | 2024年3月期 | 2025年3月期 | 増減 |
|----------------|----------|----------|---------|
| 営業キャッシュ・フロー | 10,492 | 5 | △10,487 |
| 投資キャッシュ・フロー | 1,915 | 15,098 | 13,182 |
| 財務キャッシュ・フロー | △8,446 | △9,234 | △787 |
| 現金及び現金同等物の期末残高 | 18,193 | 24,391 | 6,197 |

非資金損益項目等の調整後収入（14,006百万円）、営業活動に係る資産・負債の増減による支出（△9,161百万円）、法人税等の純支払額（△5,347百万円）等

有形固定資産の取得による支出（△7,664百万円）、投資有価証券の売却による収入（23,529百万円）等

有利子負債の削減（△2,345百万円）、自己株式の取得による支出（△3,440百万円）、配当金の支払い額（△3,127百万円）等

有利子負債は記載のとおり 23 億円減少し、560 億円となりました。

連結キャッシュ・フローは、非資金損益項目等の調整後収入の計上がある一方、営業活動に係る資産・負債の増減による支出、法人税等の純支払額等の計上により、営業キャッシュ・フローは 500 万円のプラスにとどまりました。

投資キャッシュ・フローでは、有形固定資産の取得による支出がありましたが、投資有価証券の売却による収入などがあり、150 億円のプラス、財務キャッシュ・フローでは有利子負債の削減や、自己株式の取得による支出、配当金の支払額の支払等により 92 億円のマイナスとなっています。

部門別業績（連結）



（単位：百万円）

| | 売上高 | | | 営業利益 | | |
|----------|-------------|-------------|-------------|----------|----------|--------|
| | 2024年3月期 | 2025年3月期 | 増減 | 2024年3月期 | 2025年3月期 | 増減 |
| 機械事業 | 82,085 | 86,301 | 4,216 | 5,696 | 5,980 | 284 |
| 産業機械部門 | 15,548 | 22,213 | 6,664 | 389 | 2,206 | 1,817 |
| ロックドリル部門 | 38,682 | 35,003 | △3,678 | 4,148 | 2,795 | △1,352 |
| ユニック部門 | 27,853 | 29,084 | 1,231 | 1,158 | 977 | △180 |
| 素材事業 | 100,388 | 108,757 | 8,369 | 2,765 | 3,169 | 403 |
| 金属部門 | 84,712 | 92,384 | 7,671 | 1,945 | 2,418 | 473 |
| 電子部門 | 6,766 | 6,545 | △221 | 212 | 125 | △87 |
| 化成品部門 | 8,908 | 9,827 | 918 | 608 | 625 | 17 |
| 不動産事業 | 1,873 | 2,071 | 198 | 470 | 686 | 216 |
| その他 | 3,908 | 4,085 | 177 | △293 | 15 | 309 |
| 調整額 | | | | △114 | △89 | 24 |
| 合計 | 188,255 | 201,216 | 12,961 | 8,524 | 9,763 | 1,239 |
| 為替 | 144.6円/\$ | 152.6円/\$ | 7.9円/\$ | | | |
| 銅価 | 8,362 \$/ト> | 9,370 \$/ト> | 1,008 \$/ト> | | | |

△ 古河機械金属グループ / 10

部門別業績ですが、売上高は2024年3月期が好調であったロックドリル部門のほか、電子部門で減収となりましたが、その他の部門が増収となり、全体では129億円の増収となりました。機械事業全体では42億円増の863億円、素材事業全体では83億円増の1,087億円となりました。

営業利益は、ロックドリル部門、ユニック部門および電子部門で減益となりましたが、主に産業機械部門および金属部門で増益となり、全体では増益となりました。機械事業全体では2億円増の59億円、素材事業全体では4億円増の31億円となりました。

為替と銅価の実績は記載のとおりです。

部門別業績予想（連結）



（単位：百万円）

| | 売上高 | | | 営業利益 | | |
|----------|----------|------------|---------|----------|------------|--------|
| | 2025年3月期 | 2026年3月期予想 | 増減 | 2025年3月期 | 2026年3月期予想 | 増減 |
| 機械事業 | 86,301 | 88,800 | 2,498 | 5,980 | 6,500 | 519 |
| 産業機械部門 | 22,213 | 21,700 | △513 | 2,206 | 2,300 | 93 |
| ロックドリル部門 | 35,003 | 36,400 | 1,396 | 2,795 | 2,200 | △595 |
| ユニック部門 | 29,084 | 30,700 | 1,615 | 977 | 2,000 | 1,022 |
| 素材事業 | 108,757 | 97,700 | △11,057 | 3,169 | △100 | △3,269 |
| 金属部門 | 92,384 | 80,200 | △12,184 | 2,418 | △1,300 | △3,718 |
| 電子部門 | 6,545 | 7,600 | 1,054 | 125 | 500 | 374 |
| 化成品部門 | 9,827 | 9,900 | 72 | 625 | 700 | 74 |
| 不動産事業 | 2,071 | 2,100 | 28 | 686 | 700 | 13 |
| その他 | 4,085 | 4,400 | 314 | 15 | 0 | △15 |
| 調整額 | | | | △89 | △100 | △10 |
| 合計 | 201,216 | 193,000 | △8,216 | 9,763 | 7,000 | △2,763 |

| | | | |
|----|-------------|-------------|------------|
| 為替 | 152.6円/\$ | 145.0円/\$ | △7.6円/\$ |
| 銅価 | 9,370 \$/ト> | 9,000 \$/ト> | △370 \$/ト> |

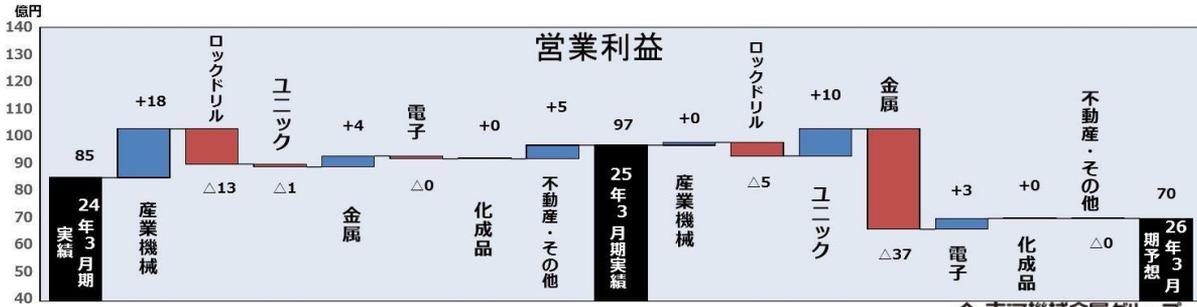
△ 古河機械金属グループ / 11

今期の通期予想の売上高は、主にロックドリル部門、ユニック部門、電子部門で増収を見込んでいるものの、円高や金属価格の影響を大きく受ける金属部門で大幅な減収を見込み、全体では減収予想としています。

営業利益は、主にユニック部門、電子部門で増益を見込んでいますが、ロックドリル部門と金属部門で円高の影響に加え、金属部門は銅精鉱の買鉱条件の大幅な悪化も見込み、全体では減益予想としています。

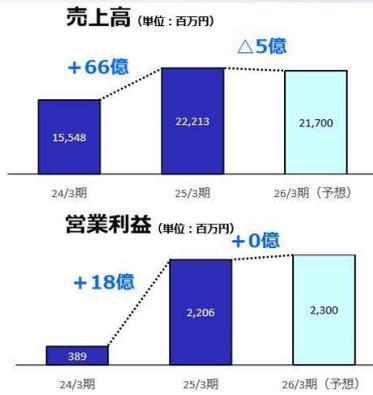
為替と銅価の実績および前提条件は記載のとおりです。

部門別業績の増減（連結） / 対前年



部門別業績の増減をグラフ化したものです。グラフの上段は売上高の増減、下段が営業利益の増減となっています。

部門別業績（産業機械部門）



■ 2025年3月期の主な増減要因

【売上高】 222億円 (+66億円)

- ・ マテリアル機械は砕石プラントの出来高増、破碎機大口案件により増収。
- ・ ポンプ設備、橋梁で既受注案件の出来高に応じた売上高の計上により大幅増収。

【営業利益】 22億円 (+18億円)

- ・ 前期にマテリアル機械のプラント工事遅延等に伴う追加原価発生があり。

| | | |
|-----|----------|-------|
| | 2025年3月期 | 対前期増減 |
| 受注残 | 100億円 | △58億円 |

【マテリアル機械】
 破碎プラント、砕石プラント、他
 【橋梁】
 R4国道20号八王子南B P大船寺田高架橋上部その1工事、山城総合運動公園城陽線（城陽橋）橋りょう新設改良工事、他
 【ベルトコンベヤ】
 ダムコンクリート搬送設備、トンネル掘削土砂搬送設備、他

■ 2026年3月期（予想）の主な増減要因

【売上高】 217億円 (△5億円)

- ・ ポンプは戦略製品の拡販やストック重視の営業施策を推進により増収、ベルトコンベヤは出来高増を見込み増収も、橋梁やポンプ設備が前期増収の反動により減収となり、全体でも減収予想。

【営業利益】 23億円 (+0.9億円)

- ・ 利益率の改善などにより前期並みを予想。

■ 参考

ポンプ

【強み】 鉱山開発で培われた耐久性、耐摩耗性等に優れたポンプ製品

【向け先】 シールドトンネル工事現場、下水処理場等

【シェア】

| | |
|--------------|--------------|
| 国内シェア 60% | 海外シェア 40% |
|--------------|--------------|

下水処理用汚泥ポンプ スラリーポンプ

マテリアル機械

【強み】 機械の製造・販売をはじめ、セクションプラントに対応

【向け先】 砕石場、石灰鉱山、製鉄所等

【シェア】

| |
|--------------|
| 国内シェア 15% |
|--------------|

破碎機

コンストラクタ事業

【強み】 工事の設計から施工まで一貫して受注できる総合力

【向け先】 鋼橋梁の新設工事、土砂搬送工事等

【注目】 ダンプトラックに替わる土砂搬送方法としてベルトコンベヤが注目、引き合い件数も増加

部門別に詳細を説明します。産業機械部門です。2025年3月期の売上高は、マテリアル機械は砕石プラントの出来高増や破碎機大口案件による増収となったほか、下水処理場向けポンプ設備や橋梁で既受注案件の出来高に応じた売上高を計上し、大幅に増収となりました。

営業利益は、前期にマテリアル機械でプラント工事の遅延に伴う追加原価の発生があったため、18億円の増益となりました。受注残および受注案件は記載のとおりです。

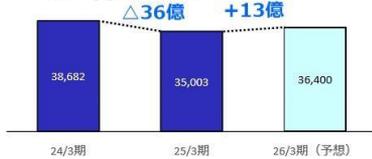
2026年3月期予想は、売上高は、ポンプは戦略製品の拡販やストック重視の営業施策を推進し増収、ベルトコンベヤは出来高増を見込み増収も、橋梁やポンプ設備が前期増収の反動により減収となり、全体では5億円の減収を予想しています。

営業利益は、利益率の改善などにより前期並みの23億円を予想しています。

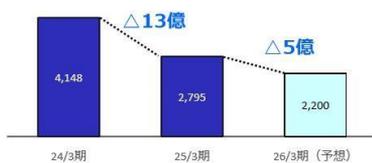
部門別業績（ロックドリル部門）



売上高 (単位: 百万円)



営業利益 (単位: 百万円)



■ 2025年3月期の主な増減要因

【売上高】 国内140億円、海外209億円 (国内△3億円、海外△33億円)

- ・国内は、油圧ブレーカの出荷増も油圧クローラドリル、トンネルドリルジャンボの出荷減により減収。
- ・海外は、東南アジアや中近東で油圧クローラドリルの出荷増も、前期好調の北米向け油圧ブレーカおよび油圧クローラドリルの大幅な出荷減により減収。

【営業利益】 27億円 (△13億円)

- ・円安効果があったものの、主に北米での減収による減益。

■ 2026年3月期 (予想) の主な増減要因

【売上高】 国内140億円 海外223億円 (国内横ばい、海外+14億円)

- ・国内は、油圧ブレーカや油圧圧砕機が出荷増も、油圧クローラドリルは需要減により前期並みを予想。
- ・海外は、北米向け油圧ブレーカの大型機種種の拡販に注力し増収予想。

【営業利益】 22億円 (△5億円)

- ・主に円高の影響により、減益予想。

■ 参考

油圧ブレーカ

【強み】 小型から超大型までラインナップ
高品質かつ高打撃力

【向け先】 砕石場等の露天掘り現場、
土木・建築現場等

【シェア】 国内シェア
40%

油圧ブレーカ



油圧クローラドリル

【強み】 岩盤の状態に応じた正確かつ
スピーディーな掘削技術

【向け先】 石灰鉱山等の露天掘り現場、
海外のインフラ整備等

【シェア】 国内シェア
70%

油圧クローラドリル



トンネルドリルジャンボ

【強み】 山岳トンネルや長大トンネルでの
数多くの実績

【向け先】 山岳トンネル工事現場、
ダム等の専水路工事現場等

【シェア】 国内シェア
80%

トンネルドリルジャンボ



△ 古河機械金属グループ

14

ロックドリル部門です。2025年3月期の売上高は、国内は油圧ブレーカの出荷増も油圧クローラドリル、トンネルドリルジャンボの出荷減により、3億円の減収となりました。海外は、東南アジアや中近東で油圧クローラドリルの出荷増も、前期好調の北米向け油圧ブレーカおよび油圧クローラドリルの大幅な出荷減により33億円の減収となりました。

営業利益は13億円減で、円安効果があったものの、主に北米での減収により減益となりました。

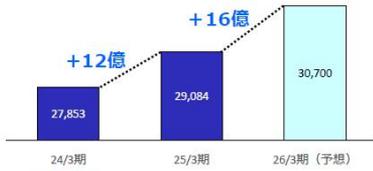
2026年3月期予想の売上高は、国内は油圧ブレーカや油圧圧砕機が出荷増も、油圧クローラドリルは需要減により前期並みを予想しています。海外は、北米向け油圧ブレーカの大型機種種の拡販に注力し増収を予想しています。

営業利益は、主に円高の影響により5億円の減益を予想しています。

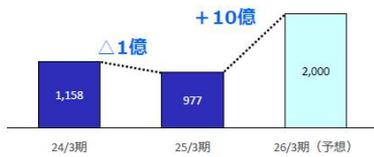
部門別業績（ユニック部門）



売上高（単位：百万円）



営業利益（単位：百万円）



■ 2025年3月期の主な増減要因

【売上高】国内229億円、海外61億円（国内+13億円、海外△1億円）

- ・国内は、トラックの生産遅延が回復傾向で、前期と比べトラック供給台数が増加したことによりユニッククレーンの出荷が増加し増収。
- ・海外は、中近東向けのユニッククレーンの出荷が増加も、中国向けのユニッククレーンや北米向けミニ・クローラクレーンの出荷が減少し減収。

【営業利益】9億円（△1億円）

- ・原材料価格の高騰に対して、値上げ前の製品出荷が続き減益。

■ 2026年3月期（予想）の主な増減要因

【売上高】国内241億円、海外65億円（国内+12億円、海外+3億円）

- ・国内は、トラック生産が徐々に回復し、ユニッククレーン、ユニックキャリアの出荷増を見込み、増収予想。
- ・海外は、北米、東南アジア、中近東での出荷増により、増収予想。

【営業利益】20億円（+10億円）

- ・増収による増益に加え、値上げ前の製品出荷が一巡し、増益予想。

■ 参考

ユニッククレーン

【強み】 ニーズに合わせたブーム段数等豊富にラインナップ

【向け先】 土木・建築現場、資材運搬、レンタル会社等

【シェア】



ユニッククレーン



ミニ・クローラクレーン

【強み】 コンパクトなボディで狭小地や不整地、屋内作業現場で威力を発揮

【向け先】 狭小地や不整地、屋内作業現場、レンタル会社等

【シェア】



ミニ・クローラクレーン



ユニックキャリア

【強み】 車載専用型や重機運搬型等の充実のラインナップ

【向け先】 自動車販売会社、運搬会社、道路施設会社等

【シェア】



ユニックキャリア



古河機械金属グループ 15

ユニック部門です。2025年3月期の売上高は、国内はトラックの生産遅延が回復傾向で、前期と比べトラック供給台数が増加したことにより、ユニッククレーンの出荷が増加し増収。海外は、中近東向けのユニッククレーンの出荷が増加したものの、中国向けのユニッククレーンや北米向けのミニ・クローラクレーンの出荷が減少し、減収となりました。全体では12億円の増収となりました。

営業利益は、鋼材などの原材料価格の高騰に対して、値上げ前の製品出荷が続いた結果、原価率が悪化し、減益となりました。

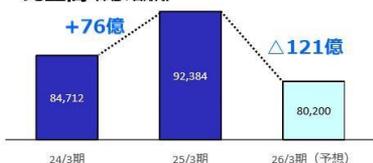
2026年3月期予想の売上高は、国内はトラック生産が徐々に回復し、ユニッククレーン、ユニックキャリアの出荷増を見込み、増収予想。海外は、北米、東南アジア、中近東での出荷増により増収を予想しています。全体では16億円の増収を見込んでいます。

営業利益は、増収による増益に加え値上げ前の製品出荷が一巡し、増益を予想しています。

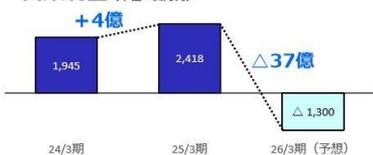
部門別業績（金属部門）



売上高 (単位: 百万円)



営業利益 (単位: 百万円)



■ 2025年3月期の主な増減要因

【売上高】 923億円 (+76億円)

- 電気銅の生産量が45,775トン (△2,487トン) となり販売数量が減少したものの、海外相場の上昇と円安効果で増収。
銅 +10億円 (数量△91億円、単価+101億円)
金 +63億円 (数量△0億円、単価+64億円)

【営業利益】 24億円 (+4億円)

- 買鉱条件悪化も、金属価格変動影響による価格差益 (下表)、円安効果により増益。

金属価格変動影響による増益について

| | 2025年3月期 | 対前期増減 |
|--------|----------|---------|
| 営業利益 | 24.1億円 | 4.7億円 |
| 内価格影響分 | 21.8億円 | 8.6億円 |
| 銅 | (3.0億円) | (1.1億円) |
| 金 | (17.4億円) | (7.1億円) |

| | 2025年3月期 | 対前期増減 |
|----|------------|------------|
| 為替 | 152.6円/\$ | 7.9円/\$ |
| 銅価 | 9,370 \$/t | 1,008 \$/t |

| | 2026年3月期 (予想) | 対2025年3月期増減 |
|----|---------------|-------------|
| 為替 | 145.0円/\$ | △7.6円/\$ |
| 銅価 | 9,000 \$/t | △370 \$/t |

■ 2026年3月期 (予想) の主な増減要因

【売上高】 802億円 (△121億円)

- 電気銅の生産量は45,076トン (△699トン) を見込み、販売数量が微減に留まるも、円高の影響により、減収予想。
銅 △62億円 (数量△3億円、単価△58億円)
金 △59億円 (数量△47億円、単価△11億円)

【営業利益】 △13億円 (△37億円)

- 買鉱条件の落ち込みによる委託損益の悪化を見込むことに加え、2025年3月期にあった金属価格変動影響による価格差益を見込まないため、赤字予想。

■ 参考

電気銅

【強み】 創業当時から電気銅の供給責任を果たし、年間約4.6万トン生産

【向け先】 電線、伸銅品、家電製品、通信機器、自動車等

【2023年度以降】

小名浜製錬(株)との契約終了に伴い委託製錬事業の抜本的な見直しにめど



金属部門です。2025年3月期の売上高は、電気銅の生産量が対前期 2,487 トン減の 4万 5,775 トンとなり、販売数量が減少したものの、海外相場の上昇と円安効果で増収となりました。

営業利益は買鉱条件の悪化も、金属価格変動影響による価格差益の計上に加え、円安効果により増益となりました。

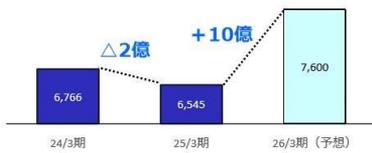
2026年3月期予想の売上高は、電気銅の生産量が対前期 699 トン減の 4万 5,076 トンを見込み、販売数量がわずかに減少するものの、円高の影響により減収を予想しています。

営業利益は、買鉱条件の落ち込みによる委託損益の悪化を見込むことに加え、2025年3月期にあった金属価格変動影響による価格差益を見込まないため、赤字予想としています。

部門別業績（電子部門）



売上高 (単位: 百万円)



■ 2025年3月期の主な増減要因

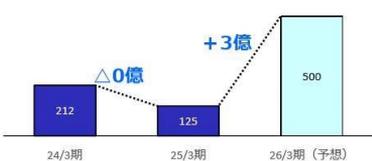
【売上高】 65億円 (△2億円)

- 窒化アルミセラミックスは半導体製造装置向け部品の需要回復により増収。
- 高純度金属ヒ素は輸出の減少、結晶製品は顧客の在庫調整の影響、コイルは自動車生産台数の伸び悩みにより減収。

【営業利益】 1億円 (△0.8億円)

- 減収による減益。

営業利益 (単位: 百万円)



■ 2026年3月期 (予想) の主な増減要因

【売上高】 76億円 (+10億円)

- 高純度金属ヒ素は市況が回復、結晶製品は顧客の在庫調整緩和、窒化アルミセラミックスは半導体製造装置向け部品の需要増により、増収予想。

【営業利益】 5億円 (+3億円)

- 増収による増益予想。

■ 参考

高純度金属ヒ素

【強み】 国内で唯一世界最高純度99.999995% (7N5) の高純度金属ヒ素を生産し、世界シェアトップ

【用途】 PC、スマートフォン、赤外線発光部品、赤色LD・LED等

【シェア】



高純度金属ヒ素



窒化アルミセラミックス

【強み】 熱伝導性、絶縁性、均熱性、耐食性に優れた放熱部材で当社独自の焼成・加工技術

【用途】 半導体製造装置用部品、高出力LD・LED、樹脂製放熱シート等

【フル生産】 優れた放熱部材としての認知が広がりつつあり、今後の需要増に向けて、増産設備投資を実施済み



△ 古河機械金属グループ / 17

電子部門です。2025年3月期の売上高は、窒化アルミセラミックスは半導体製造装置向け部品の需要回復により増収となりましたが、高純度金属ヒ素は輸出の減少、結晶製品は顧客の在庫調整の影響、コイルは自動車生産台数の伸び悩みにより減収となりました。

営業利益は、減収により減益となりました。

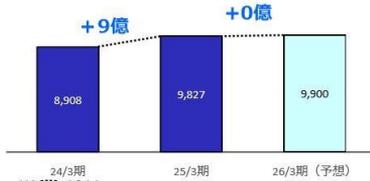
2026年3月期予想の売上高は、高純度金属ヒ素は市況が回復、結晶製品は顧客の在庫調整の緩和、窒化アルミセラミックスは半導体製造装置向け部品の需要増により増収を予想しています。

営業利益は、増収による増益を予想しています。

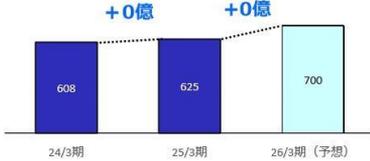
部門別業績（化成品部門）



売上高（単位：百万円）



営業利益（単位：百万円）



■ 2025年3月期の主な増減要因

【売上高】 98億円（+9億円）

- ・酸化銅はパソコン、スマートフォン、サーバー等のパッケージ基板向けの需要減少も、銅価上昇や価格改定で単価上昇により増収。
- ・亜酸化銅は船底塗料向けの需要好調に加え、銅価上昇や価格改定等により増収。

【営業利益】 6億円（+0.1億円）

- ・増収による増益。

■ 2026年3月期（予想）の主な増減要因

【売上高】 99億円（+0.7億円）

- ・亜酸化銅は船底塗料向けの需要減を見込むものの、AIサーバー市場を中心に需要が拡大傾向にある酸化銅の増収を見込み、全体では前期並みと予想。

【営業利益】 7億円（+0.7億円）

- ・前年並みと予想。

■ 参考

| 亜酸化銅 | |
|-------|---------------------------|
| 【強み】 | 船底へのフジツボ等の付着を防止する船底塗料用防汚剤 |
| 【向け先】 | 船底塗料メーカー等 |
| 【シェア】 | 国内シェア 45% |

| 酸化銅 | |
|---------|---|
| 【強み】 | パッケージ基板等の回路形成用めっきシステムに適した銅原料 |
| 【向け先】 | パソコンやサーバー等に使用されるパッケージ基板製造メーカー等 |
| 【生産力増強】 | 電子材料の小型化や高性能化により、パッケージ基板は今後需要増が見込まれ、現有設備の生産力増強を予定 |

| 硫酸 | |
|--------|---------------------------|
| 【強み】 | 硫酸焙焼法で不純物が少なく、食品添加物にも使用可能 |
| 【向け先】 | 化学・電子部材・鉄鋼・食品加工等の製造会社等 |
| 【基礎原料】 | 各製造会社に不可欠な基礎材料として需要は安定 |

化成品部門です。2025年3月期の売上高は、酸化銅はパソコン、スマートフォン、サーバー等のパッケージ基板向けの需要減少も、銅価上昇や価格改定による単価上昇により増収。亜酸化銅は、船底塗料向けの需要好調に加え、銅価上昇および価格改定等により増収となりました。

営業利益は、主に亜酸化銅の増収による増益となりました。

2026年3月期予想の売上高は、亜酸化銅は船底塗料向けの需要減を見込むものの、AIサーバー市場を中心に需要が拡大傾向にある酸化銅の増収を見込み、全体では前期並みと予想しています。

営業利益は、売上高に比例して前期並みと予想しています。

■米国関税の影響を受けるのは、ロックドリル部門とユニック部門

| | ロックドリル部門 | ユニック部門 |
|-------------------------|---|---------------------------------|
| 海外売上高 (2024年度実績) | 209億円 | 61億円 |
| うち米国向け輸出額 (2024年度実績) | 約60億円 | 約15億円 |
| 米国への輸出ルート | 日本→米国 | 日本→タイ→米国 |
| (参考) 競合他社海外生産拠点 | エピロック : 欧州、中国、韓国、 インド サンドビック : 欧州、インド | 前田製作所 : 日本 ジェコ(Jekko) : イタリア |

■ロックドリル部門については、関税率よりも、関税による米国景気の減退が不安材料（買い控えの発生など）

■関税による影響額は、2026年3月期予想には織り込んでおりません。

次に、米国関税の影響について説明します。当社グループで米国関税の影響を受けるのは、ロックドリル部門とユニック部門になります。ロックドリル部門は、日本から米国に輸出しており、2024年度の輸出額は約60億円です。ユニック部門は、日本からタイ、そして米国というルートで輸出しており、輸出額は約15億円です。関税率による業績影響よりも、関税による米国景気の減退が不安材料と捉えており、引き続き注視していきます。

参考として、当社グループが輸出している製品の競合他社における海外生産拠点を記載していますので、ご確認いただければと思います。

なお、2026年3月期予想には、米国の関税による影響は織り込んでいません。

■ 政策保有株式[※]の縮減目標

2024年5月、政策保有株式の連結純資産に対する比率を2025年3月末までに20%未満まで縮減する目標を公表。

2025年3月末時点 政策保有株式比率は、**16.6%まで縮減し、目標達成**

※政策保有株式
保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式の連結貸借対照表計上額（非上場株式を含むが、非連結子会社および関連会社に対する株式を除く。）+みなし保有株式

政策保有株式比率の推移



■ 今後の対応

保有の必要性が認められなくなった銘柄は売却を行うなど、引き続き縮減に努め、政策保有株式比率を継続開示。

続きまして、中期経営計画 2025 の進捗状況等について説明します。

まず、資産効率向上としての政策保有株式の縮減についてです。2024年5月に政策保有株式の連結純資産に対する比率を2025年3月末までに20%未満まで縮減する目標を発表しました。2025年3月末時点において、政策保有株式比率は2024年3月末の40.8%から、1年間で16.6%まで縮減し、目標を達成しました。

今後も資産効率性の改善を図るとともに、保有の必要性が認められなくなった銘柄は売却を行うなど、引き続き縮減を進めることで、持続的な成長と長期的な企業価値の向上の実現に努めていきます。引き続き、縮減の結果として、政策保有株式の連結純資産に対する比率を開示していきます。

株主還元の拡充

■ **配当**

- ・ 配当方針：原則1株当たり50円以上の年間配当金および連結自己資本総還元率3%以上を目安
- ・ 2025年3月期 中間配当30円、期末配当40円（記念配当10円含む）の**年間70円に増配予定**
- ・ 2026年3月期 中間配当30円、期末配当40円の**年間70円配当を継続予定**

■ **自己株式の取得**

- ・ 2026年3月期までの3年間の自己株式の取得総額は、**130億円程度に目標を増額（2025年2月10日公表）**
- ・ 2024年3月期取得額：16億円、2025年3月期取得額：34億円
- ・ 2026年3月期取得見込み額：約80億円



次に、株主還元についてです。配当については、記載の配当歩方針を原則としていますが、2025年3月期は中間配当30円、期末配当を、記念配当10円を含む40円の年間70円に増配を予定しています。

また、2026年3月期の配当予想については、中間配当30円、期末配当40円の年間70円配当を継続する予定です。

自己株式の取得については、2025年2月10日に2026年3月期までの3年間の取得総額を130億円程度に目標を増額することを公表しています。2024年3月期は16億円、2025年3月期は34億円の自己株式取得を行っており、2026年3月期には約80億円の取得を見込んでいます。

5 連結資金収支



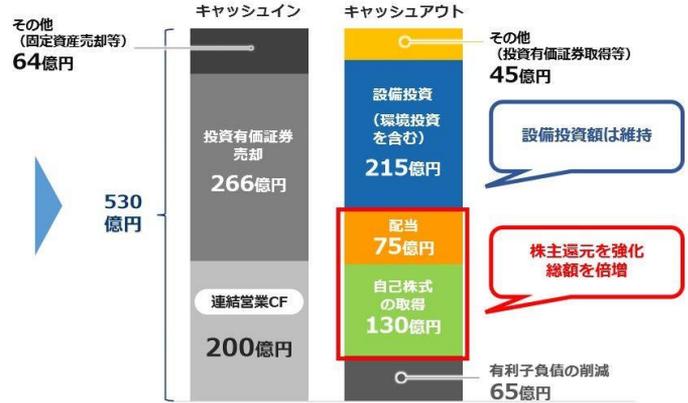
中期経営計画2025 (3年間の累計イメージ)

- 堅固な財務基盤の確立を目指し、中長期的な企業価値向上を実現する設備投資の実施
- 株主還元配慮した営業キャッシュ・フローの配分



2023~2025年度累計

- 2026年2月までに上限100億円または上限700万株とする自己株式の追加取得を発表
- 政策保有株式の縮減によるキャッシュインも考慮した配分に変更



連結資金収支です。中期経営計画 2025 では、堅固な財務基盤の確立を目指し、中長期的な企業価値の向上を実現する設備投資の実施や、株主還元配慮した営業キャッシュ・フローの配分として左のグラフを公表しています。

今般、2026年2月までに上限100億円または上限700万株とする自己株式の追加取得を発表したことや、政策保有株式の縮減によるキャッシュインも考慮して、2023年度から2025年度の3年間累計の配分を、右のグラフで示したとおり変更しました。

営業キャッシュ・フローは中期経営計画 2025 の目標水準から半減の200億円を想定していますが、投資有価証券売却等を見込み、キャッシュインの総額は530億円としており、キャッシュアウトでは積極的な増配、自己株式の取得の実施により、当初の株主還元総額100億円から、倍の205億円と、株主還元を強化しています。設備投資についても、3年間で計画していた投資額を維持する見込みです。

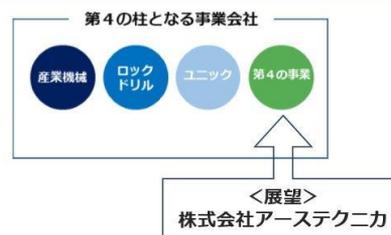
■アライアンス・M&Aへの投資の基本方針

●コア事業と位置づけている機械事業の隙間を埋めて連続性を創る周辺事業会社や第4の柱となる事業会社の模索

●株式会社アーステクニカ

- ・川崎重工業株式会社の100%子会社
- ・破碎機部門を主体に、優れた技術力、高い生産性、豊富な製品のラインナップおよび強固な販売・サービスネットワークを有する
- ・アーステクニカの主力分野に成長した環境リサイクル分野により地球環境保護に貢献

■コア事業と位置づける機械事業の第4の柱を築くことを展望



子会社化に向けた協議開始

- ・2025年5月13日 川崎重工業株式会社と検討開始の基本合意書の締結
- ・2025年12月下旬（予定） 最終合意書締結
- ・2026年4月1日（予定） 第一段階の株式譲渡（連結子会社化）
- ・2027年4月1日（予定） 第二段階の株式譲渡（完全子会社化）

△ 古河機械金属グループ / 23

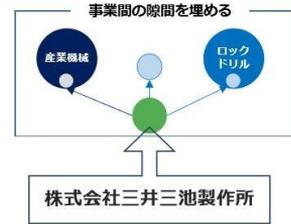
アライアンス・M&Aへの投資です。アライアンス・M&Aへの投資の基本方針は記載のとおりですが、コア事業と位置付けている機械事業については、連結営業利益の80%以上を占めることを目指しており、将来における非連続的な成長を実現するために、アライアンスやM&Aの取り組みを強化しています。

具体的には、2025年5月13日、株式会社アーステクニカ株式の譲渡の検討を開始する基本合意書の締結について、を発表しました。株式会社アーステクニカは、川崎重工業株式会社の100%子会社で、破碎機部門を主体に優れた技術力、高い生産性、豊富な製品ラインナップおよび強固な販売・サービスネットワークを有しており、主力分野に成長した環境リサイクル分野により、地球環境保護にも貢献しています。

既に子会社化に向けた協議を開始していますが、株式会社アーステクニカを当社グループに迎えることで、コア事業と位置づける機械事業の第4の柱を築くことを展望しています。今後の協議スケジュールは記載のとおりです。

■アライアンス・M&Aへの投資の基本方針

- コア事業と位置づけている機械事業の隙間を埋めて連続性を創る周辺事業会社や第4の柱となる事業会社の模索
- 株式会社三井三池製作所
 - ・ 荷役運搬機械等を主力とする産業機械及び装置を製造販売
 - ・ 当社産業機械部門・ロックドリル部門の事業の関連製品を有する



持分法適用関連会社化

議決権比率20%の株式を取得

- コア事業と位置づける機械事業の隙間を埋めて連続性を創り、営業面、生産面でシナジーを見込む

| <製品群の補完関係> | 産業機械部門 | 株式会社三井三池製作所 | ロックドリル部門 | |
|------------|--|--|--|--|
| 相乗効果 | <ul style="list-style-type: none"> ・ ベルトコンベヤ ・ スラリーポンプ | <ul style="list-style-type: none"> ・ ベルトコンベヤ ・ 水力発電水車 | <ul style="list-style-type: none"> ・ ロードヘッド ・ ツインヘッド | <ul style="list-style-type: none"> ・ トンネル関連製品 |
| 隙間を埋める | | 砕石プラントでの一連の機械群を提供可能に 採掘 ⇒ 搬送 ⇒ 破碎 ⇒ 分級 ⇒ 搬送 ⇒ 荷役 | | |
| 新規需要開拓 | — | <ul style="list-style-type: none"> ・ バルクハンドリングシステム ・ 原動機事業 ・ 精密機器事業 | | |

また、2025年3月27日、株式会社三井三池製作所の株式取得（持分法適用関連会社化）に関するお知らせを発表しました。株式会社三井三池製作所は、荷役運搬機械等を主力とする、産業機械および装置の製造販売を手がけており、当社グループの産業機械部門およびロックドリル部門の事業の関連製品を有しています。持分法適用関連会社化により、コア事業と位置づける機械事業の隙間を埋めて連続性を創り、営業面、生産面でのシナジー効果を見込んでいます。三井三池製作所の製品群と産業機械、ロックドリル部門の製品群との補完関係は記載のとおりです。

(単位：百万円)

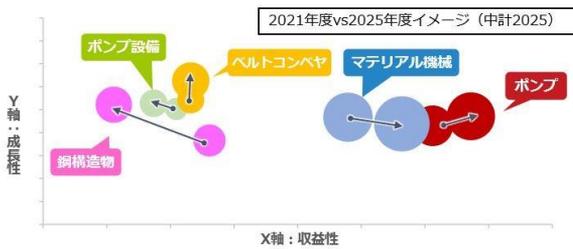
| 営業利益 | 2025年度予想 | 2025年度イメージ | 差異 |
|----------|----------|------------|--------|
| 機械事業 | 6,500 | 10,700 | △4,200 |
| 産業機械部門 | 2,300 | 3,000 | △700 |
| ロックドリル部門 | 2,200 | 3,700 | △1,500 |
| ユニック部門 | 2,000 | 4,000 | △2,000 |
| 素材事業 | △100 | 1,900 | △2,000 |
| 金属部門 | △1,300 | 500 | △1,800 |
| 電子部門 | 500 | 700 | △200 |
| 化成品部門 | 700 | 700 | 0 |
| 不動産事業 | 700 | 600 | 100 |
| その他・調整額 | △100 | △200 | - |
| 連結 | 7,000 | 13,000 | △6,000 |

※2025年度予想は、2025年5月13日公表

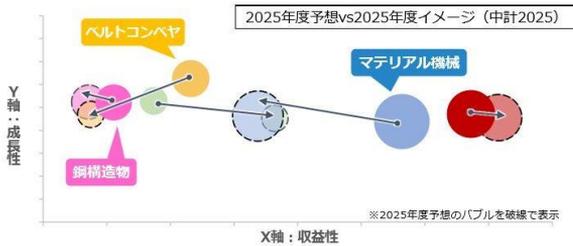
次に、2025年度予想と中期経営計画2025で公表した2025年度イメージとの営業利益の比較について説明します。

機械事業では、2025年度予想は2025年度イメージに比べ42億円の減益、素材事業では20億円の減益を見込んでいます。素材事業については主に金属部門によるもので、その要因については先ほどご説明していますので割愛させていただきます。コア事業と位置付けた機械事業の進捗状況および乖離理由について、次ページ以降で説明します。

中期経営計画2025発表時の事業（製品）ポートフォリオ



2025年度予想でみた事業（製品）ポートフォリオ



※2025年度予想のバブルを破線で表示

中期経営計画2025の基本戦略、重点課題は、「中期経営計画説明会資料」P16～17参照

■ 2025年度予想と2025年度イメージとの乖離理由と対策

● マテリアル機械

- ・ 砕石業界の市況低迷による競争激化で受注低迷
- ・ 西日本エリアは、幅広くターゲットを選定したものの成果に至らず苦戦

- ・ 地域影響力の大きい大手顧客に営業リソースを集中投入
- ・ IoTを活用したビジネスモデル構築に向け、2025年度より一部顧客にサービスを提供開始
→ 収集データの分析や蓄積したノウハウを活用し更なるサービス展開拡大と収益化を目指す

● 鋼構造物

- ・ 技術提案力、工事成績評点の向上等により、入札案件の受注確度を高め、安定的な収益確保を図る

- ・ ゼネコン、他橋梁メーカーからの鋼橋梁製作や鋼製セグメントの拡販を推進

● ベルトコンベヤ

- ・ トンネル工事、ダム関連工事、河川治水工事等で引合増も、工事の発注遅れにより受注時期がずれ込み低迷

- ・ 引合のある大型案件の確実な受注、民間需要も含めた中型案件の受注獲得により受注・収益の安定化を図る

- ・ 国内調達、生産等により、密閉式吊下げ型コンベヤSICON®のコストダウンや納期短縮を図る

ページ左上は、中期経営計画 2025 で発表したバブルチャートで、製品別の 2021 年度実績と 2025 年度イメージとの比較を示しています。バブルの大きさは営業利益額のイメージを表しています。

左下は、2025 年度予想と 2025 年度イメージを比較したバブルチャートで、2025 年度予想のバブルを薄くし、破線で示しています。各製品における主な乖離理由と対策について説明します。

産業機械部門です。まず、2025 年度予想で乖離の大きいマテリアル機械については、メインターゲットの砕石業界の市況低迷による競争激化で受注が低迷しています。新規開拓・他社入替を狙った西日本エリアは、幅広くターゲットを選定したものの、成果に至らず苦戦しています。

今後は地域影響力の大きい大手顧客に営業リソースを集中投入し、受注増を目指していきます。また、IoT を活用したビジネスモデル構築に向け、2025 年度より一部顧客にサービスの提供を開始しました。収集したデータの分析や蓄積したノウハウを活用し、さらなるサービス展開の拡大と収益化を目指していきます。

鋼構造物は、前期に橋梁工事が多く進捗したため、2025 年度はその反動減を想定していますが、大きな乖離はありません。引き続き技術提案力、工事成績評点の向上等により、入札案件の受注確度を高め、安定的な収益確保を図っていきます。また、入札結果に左右されにくい体制を構築すべく、ゼネコン、他の橋梁メーカーからの鋼橋梁製作や鋼製セグメントの拡販を推進します。

ベルトコンベヤは、トンネル工事、ダム関連工事、河川治水工事等で引き合いが増加しているものの、工事の発注遅れにより受注時期がずれ込み低迷しており、中計と乖離が出ています。しかし目指す方向には手応えを感じており、将来に期待を持っています。

引き合いのある大型案件の確実な受注のほか、民間需要も含めた中型案件の受注獲得により、受注・収益の安定化を図っていきます。また、国内調達、生産等により、密閉式吊下げコンベヤ SICON®のコストダウン、納期短縮も図っていきます。

2025年度予想と2025年度イメージとの比較 — 産業機械部門 —



中期経営計画2025発表時の事業（製品）ポートフォリオ



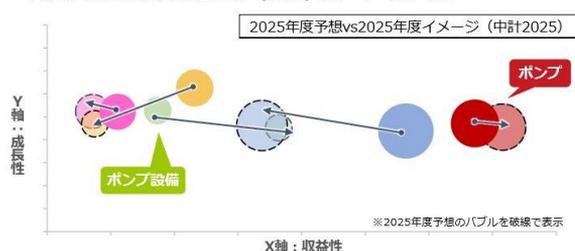
■ 2025年度予想と2025年度イメージとの乖離理由と対策

●ポンプ

- ・部品販売は想定通り
- ・戦略機スラリーポンプ（LK3）をストックビジネスの見込める非鉄・化学業界へ投入、中四国地区の営業強化により、他社入替が進展
- ・下水処理場向け汚泥ポンプは、オーバーホール需要の掘り起こしが奏功

- ・他社機入替を継続するとともに、半導体・電子部品業界でのシェア拡大を図る
- ・稼働から30年以上となる老朽化した下水処理場の増加に伴い、これまで以上に部品需要、更新需要を見込む

2025年度予想でみた事業（製品）ポートフォリオ



●ポンプ設備

- ・営業および技術者の人員増強により、西日本エリアでの受注エリア拡大を進め前期には新規自治体での受注を獲得

- ・今後も持続的な受注獲得に向け、拡大施策を継続的に推進

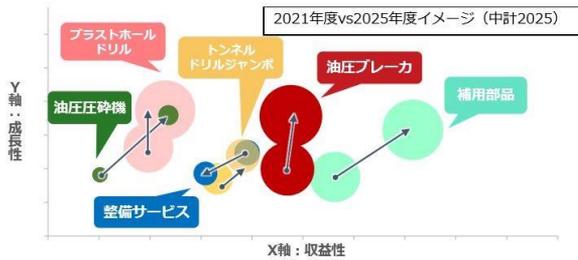
中期経営計画2025の基本戦略、重点課題は、「中期経営計画説明会資料」P16～17参照

ポンプはおおむね順調に推移しています。部品販売は想定どおりです。本体販売は、戦略機であるスラリーポンプをストックビジネスの見込める非鉄・化学業界へ投入、中四国地区の営業強化により、他社入替が進展しています。下水処理場向け汚泥ポンプは、全国営業ネットワーク強化によるオーバーホール需要の掘り起こしが奏功しています。

今後も他社機入替を継続し、半導体・電子部品業界でのシェア拡大を図っていきます。また、稼働から30年以上となる老朽化した下水処理場の増加に伴い、これまで以上に部品需要とともに更新需要が見込まれます。

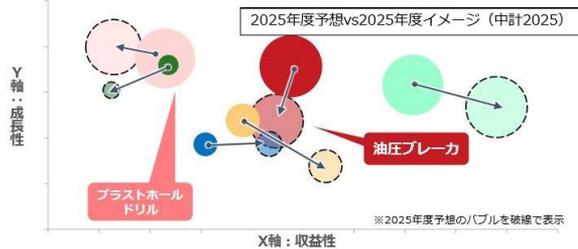
ポンプ設備も順調に推移しています。営業および技術者の人員増強により、西日本エリアでの受注エリア拡大を進め、前期には新規自治体での受注を獲得しました。今後も持続的な受注獲得に向け、拡大施策を継続的に推進していきます。

中期経営計画2025発表時の事業（製品）ポートフォリオ



【為替の前提条件】 2021年度実績：112.4円/\$ 2023年度実績：144.6円/\$ 2025年度イメージ：135.0円/\$

2025年度予想でみた事業（製品）ポートフォリオ



※2025年度予想のバブルを破線で表示
 中期経営計画2025の基本戦略、重点課題は、「中期経営計画説明会資料」P18～19参照
 ロックドリル事業説明会資料はこちら https://www.furukawakk.co.jp/ir/library/pdf/Pre_157M.pdf

■ 2025年度予想と2025年度イメージとの乖離理由と対策

● プラストホールドリル※ ※油圧/空圧コロラドリル、ダウンザールドリル、アタッチメントドリルの総称

- ・北米の需要の一服に加え、米国の政策による景気不透明感もあり出荷減
- ・北米の「集中生産・集中販売」は着実に推進
- ・東南アジアは、第3の市場として碎石市場創造を目指した営業力強化により販売収益は増加傾向

- ・2023年度に拠点設立した北米西部地区の開拓は効果が出始めており一層強化を図る
- ・北米東部地区は未開拓地域への新規開拓が課題であり、販路拡大に努める

● 油圧ブレーカ

- ・主要市場である北米の影響による出荷減
- ・欧州もロシアによるウクライナ侵攻の長期化に伴う景気悪化もあり出荷減

- ・利益率の高い大型・超大型機の拡販に注力
- ・欧州の主要市場（仏、英、伊、独）以外の地域（東欧など）への販路拡大を図る

ロックドリル部門です。プラストホールドリルは、中計との乖離があります。その主な要因は、北米の需要の一服に加え、米国の政策による景気不透明感もあり、出荷が減少したことによりますが、北米の集中生産・集中販売は着実に推進しています。

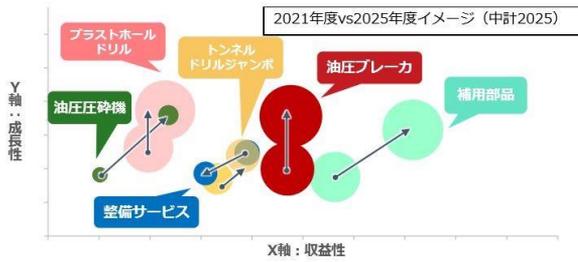
東南アジアは、北米、欧州に続く第3の市場として碎石市場創造を目指した営業力強化により、販売収益は増加傾向にあります。

2023年度に拠点を設立した北米西部地区の開拓は効果が出始めており、より一層の強化を図ります。北米東部地区は未開拓地域への新規開拓が課題であり、販路拡大に努めていきます。

油圧ブレーカも中計と乖離が出ています。主要市場である北米の影響による出荷減に加え、ウクライナ復興を見据えていた欧州も、ロシアによるウクライナ侵攻の長期化に伴う景気悪化もあり出荷が減少しています。

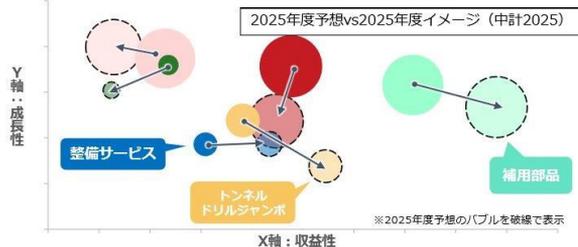
利益率の高い大型・超大型機の拡販に注力するとともに、欧州の主要市場、フランス、イギリス、イタリア、ドイツ以外の地域、東欧などへ販路拡大を図っていきます。

中期経営計画2025発表時の事業（製品）ポートフォリオ



【高替の前提条件】 2021年度実績：112.4円/\$ 2023年度実績：144.6円/\$ 2025年度イメージ：135.0円/\$

2025年度予想でみた事業（製品）ポートフォリオ



※2025年度予想のバブルを破線で表示
 中期経営計画2025の基本戦略、重点課題は、「中期経営計画説明会資料」P18～19参照
 ロックドリル事業説明会資料はこちら https://www.furukawakk.co.jp/ir/library/pdf/Pre_157M.pdf

■ 2025年度予想と2025年度イメージとの乖離理由と対策

● トンネルドリルジャンボ

- ・大型トンネル工事がピークアウトし出荷減も、自動化・機械化を実現する高付加価値製品（全自動ドリルジャンボなど）により、収益性は向上し、利益水準は想定通りに進捗

● 整備サービス

- ・国内整備の約8割はトンネルドリルジャンボ関連で、高付加価値製品の上市により整備サービスも増加
- ・油圧クローラードリルの稼働サポートプログラム※は、順調に契約数を伸ばす
 ※顧客の生産性向上支援プログラム（FD-CARE Drill Operation）、稼働情報配信サービス（FD-CARE Report Delivery）

- ・DXによる更なるサービスプログラムの拡充を図る

● 補用部品

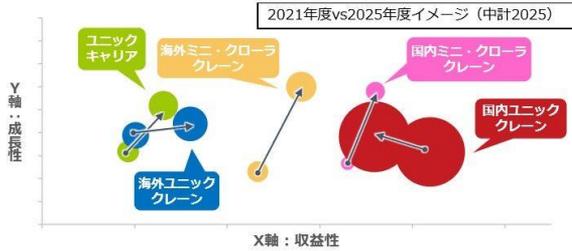
- ・国内、海外ともに主要地域での拡販が奏功
- ・部品価格の見直しによる収益性改善

トンネルドリルジャンボは順調に推移しています。大型トンネル工事がピークアウトし、出荷が減少しているものの、自動化・機械化を実現する高付加価値製品により収益性は向上し、利益水準は想定どおりに進捗しています。

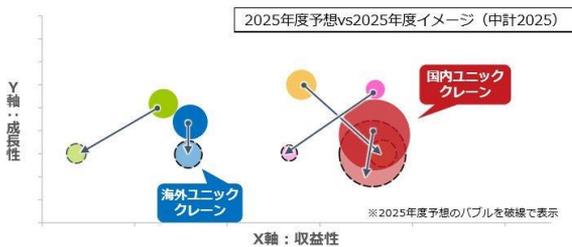
整備サービスは、計画を上回っています。国内整備の約8割がトンネルドリルジャンボ関連であることから、全自動ドリルジャンボ等の高付加価値製品を上市してきたことにより、整備サービスも増加しています。また、油圧クローラードリルの稼働サポートプログラムは、顧客の生産性向上支援プログラムや稼働情報配信サービスが順調に契約数を伸ばしています。今後もDXによる更なるサービスプログラムの拡充を図っていきます。

補用部品も、計画を上回っています。国内、海外ともに主要地域での拡販が奏功しています。また、部品価格の見直しにより収益性も改善しています。

中期経営計画2025発表時の事業（製品）ポートフォリオ



2025年度予想でみた事業（製品）ポートフォリオ



中期経営計画2025の基本戦略、重点課題は、「中期経営計画説明会資料」P20～21参照

■ 2025年度予想と2025年度イメージとの乖離理由と対策

● ユニッククレーン

国内

- ・トラック生産に関わるボディ加工メーカーの生産能力の状況は依然として逼迫し、当初想定よりもトラックの供給回復は鈍く、不安定な状態が続く
- ・新型トラックへの切替え準備等によりトラックの商談が一時的に停滞
- ・燃料費高騰、2024年問題等による物流業者の設備投資の遅滞で、販売に影響

・原材料の高騰を売価に適切に反映させ、収益性を維持・向上を図る

海外

- ・アジアは市況が急速に悪化
ベトナム：トラック供給不足、中国：不動産市況の低迷等
- ・米国関税の影響によりアジア地域の経済への影響は不可避、販売低迷の懸念
- ・中東市場への拡販や大型・超大型機の拡販は計画通りに進展

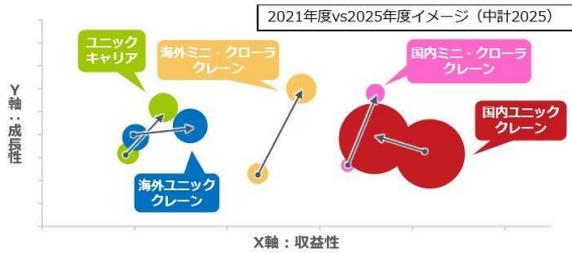
・製品の機能強化により新規顧客を獲得、販売ネットワークの拡充を図る
・関税問題の影響が比較的軽微な中東での拡販を積極的に展開

最後に、ユニック部門です。ユニッククレーンは中計と乖離が出ています。国内は、トラック生産に関わるボディ加工メーカーの生産能力の状況は依然として逼迫しており、当初想定よりもトラックの供給回復は鈍く、不安定な状態が続いています。また、新型トラックへの切替え準備等により、トラックの商談が一時的に停滞しているほか、燃料費高騰、2024年問題等による物流業者の設備投資の遅滞で、販売にも影響が出ると見込んでいます。そのような状況においても、原材料の高騰を売価に適切に反映させ、収益性の維持・向上を図っていきます。

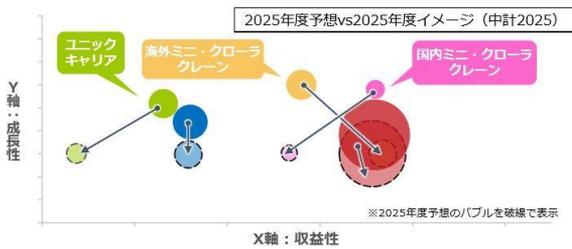
海外は、東南アジア増販の中心であるベトナムでのトラック供給不足や、中国での不動産市況の低迷等により、アジアは市況が急速に悪化しています。また、米国関税の影響により、アジア地域の経済への影響は避けられず、販売が低迷する懸念があります。一方、中東市場への拡販や大型・超大型機の拡販は計画通りに進展しています。

今後は、製品の機能強化により新規顧客の獲得や、販売ネットワークの拡充を図っていきます。また、関税問題の影響が比較的軽微な中東での拡販を積極的に展開していきます。

中期経営計画2025発表時の事業（製品）ポートフォリオ



2025年度予想でみた事業（製品）ポートフォリオ



中期経営計画2025の基本戦略、重点課題は、「中期経営計画説明会資料」P20～21参照

■ 2025年度予想と2025年度イメージとの乖離理由と対策

●ミニ・クローラクレーン

国内

- ・鉄塔工事業向け等の新規市場開拓の強化により市場規模は拡大も、業界内での認知向上が課題

・製品アプローチを強化し、市場開拓・普及のスピードアップを図る

海外

- ・北米：徐々に大型機の販売が伸長
- ・欧州：新型機の投入遅延で、競合機との差別化が図れず販売が低迷

・市場の再構築を目的として、製品の改良を進める
・販売ネットワークの拡充による新規顧客開拓を図る

●ユニックキャリア

- ・生産能力向上で納期短縮には努めるも、トラック供給は依然不安定

・差別化機能をパッケージ化し、製品価値を向上
・原材料の高騰を適切に売価に反映し、収益性の維持を図る

ミニ・クローラクレーンも乖離が出ています。国内は、鉄塔工事業向け等の新規市場開拓の強化により、市場規模は拡大してきているものの、業界内での認知向上が課題となっています。今後は製品アプローチを強化し、市場開拓・普及のスピードアップを図っていきます。

海外については、北米では徐々に大型ミニ・クローラクレーンの販売が伸長してきていますが、欧州において新型機の投入が遅延し、競合機との差別化が図れず販売が低迷しています。今後は、まずは市場の再構築を目的として製品の改良を進めるとともに、販売ネットワークの拡充による新規顧客の取り込みを図っていきます。

ユニックキャリアは、生産能力向上による納期短縮には努めたものの、トラックメーカーからの供給は依然として不安定な状況です。今後は、差別化機能をパッケージ化し、製品価値を向上させるほか、原材料の高騰を適切に売価に反映し、収益性の維持を図っていきます。

■ 現経営理念体系の見直し

- 2015年 創業140周年を機に新たな経営理念と10年後のありたい姿を描いた長期ビジョンを制定

経営理念体系の見直しを検討

古河機械金属グループの経営理念体系



■ 長期ビジョン・中期経営計画

- 2025年度 長期ビジョン（2025年ビジョン）最終年度

新長期ビジョンを検討、2025年11月発表予定

機械事業を成長のコア事業とする基本方針は不変

新長期ビジョンに基づく次期中期経営計画は、2026年5月発表予定

最後に、現在検討を進めている経営理念体系の見直しと次期中期経営計画について説明します。

現在の経営理念体系は、2015年の創業140周年を機に新たな経営理念と、10年後のありたい姿を描いた長期ビジョンを制定しました。創業150周年を迎える現在、さらなる先を見据えて経営理念体系の見直しを検討しています。

また、現在の長期ビジョンは2025年度が最終年度になりますので、新たな長期ビジョンの検討も進めています。2025年11月に発表できるよう準備を進めていますが、機械事業を成長のコア事業とする基本方針は変えません。新しい長期ビジョンに基づく次期中期経営計画についても今年度中に検討を進め、2026年5月に発表する予定です。

【設備投資の状況（連結）】

(単位：百万円)

| 設備投資額 | 2023年3月期 | 2024年3月期 | 2025年3月期 | 2026年3月期 (予想) |
|----------|----------|----------|----------|------------------|
| 機械事業 | 2,125 | 4,430 | 2,723 | 2,600 |
| 産業機械部門 | 912 | 2,547 | 418 | 200 |
| ロックドリル部門 | 708 | 1,025 | 1,266 | 1,500 |
| ユニット部門 | 504 | 857 | 1,038 | 900 |
| 素材事業 | 1,571 | 1,581 | 1,447 | 1,600 |
| その他 | 489 | 2,001 | 3,486 | 1,800 |
| 合計 | 4,187 | 8,013 | 7,657 | 6,000 |

群馬環境リサイクルセンターの医療廃棄物処理設備（焼却炉増設、2022年度から2023年度まで総額約28億円）の新設による増加等

長野県で塗装工場建設（約4億円）等

金属部門の大分鉱業で防災堰堤建設工事等
化成品部門で硫酸製造設備更新等

金属部門の大分鉱業で設備更新等
化成品部門で硫酸製造設備更新等

不動産事業で大阪に賃貸ビル取得等
(2023年度約12億円、2024年度約20億円)

【減価償却費の状況（連結）】

| | | | | |
|-------|-------|-------|-------|-------|
| 減価償却費 | 4,114 | 4,387 | 4,835 | 5,000 |
|-------|-------|-------|-------|-------|

【研究開発費の状況（連結）】

| | | | | |
|-------|-------|-------|-------|-------|
| 研究開発費 | 1,508 | 1,314 | 1,287 | 1,400 |
|-------|-------|-------|-------|-------|

【金属製品・為替の状況（連結）】

| | | 2023年3月期 | 2024年3月期 | 2025年3月期 | 2026年3月期 (予想) |
|------------------|-------|----------|----------|----------|------------------|
| 銅 海外相場 (平均) | €/ポンド | 387.9 | 379.3 | 425.0 | 408.2 |
| | \$/ト | 8,551 | 8,362 | 9,370 | 9,000 |
| 円相場 対米ドル平均(円/\$) | | 135.47 | 144.62 | 152.57 | 145.00 |

| 《古河メタルリソース㈱生産販売》 | 2023年3月期 | 2024年3月期 | 2025年3月期 | 2026年3月期 (予想) |
|------------------|----------|----------|----------|------------------|
| 銅 生産量 (t) | 70,186 | 48,262 | 45,775 | 45,076 |
| 銅 販売量 (t) | 74,070 | 53,505 | 46,039 | 45,800 |

<銅の生産量について>
・2023年3月末に小名浜製錬㈱との委託製錬契約を終了し生産量は減少。
もう一つの委託先である日比共同製錬㈱のみで生産。

【従業員の状況（連結）】

| | 2023年3月末 | 2024年3月末 | 2025年3月末 | 対2024年3月末増減 |
|---------|----------|----------|----------|-------------|
| 連結人員(名) | 2,831 | 2,855 | 2,908 | 53 |

| 連結業績 | | (単位：百万円) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----------------|---------|----------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|------------|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|
| | 10年3月期 | 11年3月期 | 12年3月期 | 13年3月期 | 14年3月期 | 15年3月期 | 16年3月期 | 17年3月期 | 18年3月期 | 19年3月期 | 20年3月期 | 21年3月期 | 22年3月期 | 23年3月期 | 24年3月期 | 25年3月期 | 26年3月期(予想) | | | | | | | | | | |
| 売上高 | 142,925 | 165,630 | 157,366 | 165,539 | 163,026 | 172,544 | 161,799 | 149,829 | 167,695 | 174,116 | 165,215 | 159,702 | 199,097 | 214,190 | 186,255 | 201,216 | 193,000 | | | | | | | | | | |
| 営業利益 | 1,597 | 2,821 | 2,154 | 3,363 | 6,686 | 6,925 | 7,960 | 6,345 | 7,820 | 6,915 | 6,693 | 5,592 | 7,734 | 9,031 | 6,524 | 9,763 | 7,000 | | | | | | | | | | |
| 経常利益 | 111 | 1,231 | 1,260 | 2,763 | 6,150 | 6,603 | 6,227 | 7,202 | 6,105 | 6,235 | 6,135 | 6,773 | 6,996 | 9,348 | 10,304 | 9,705 | 7,000 | | | | | | | | | | |
| 親会社株主に帰属する当期純利益 | 505 | 563 | △1,659 | 2,976 | 3,978 | 9,793 | 5,056 | 4,254 | 4,774 | 4,654 | 4,431 | 7,468 | 6,477 | 6,211 | 16,097 | 10,619 | 5,000 | | | | | | | | | | |
| 部門別業績 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 【売上高】 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 10年3月期 | 11年3月期 | 12年3月期 | 13年3月期 | 14年3月期 | 15年3月期 | 16年3月期 | 17年3月期 | 18年3月期 | 19年3月期 | 20年3月期 | 21年3月期 | 22年3月期 | 23年3月期 | 24年3月期 | 25年3月期 | 26年3月期(予想) | | | | | | | | | | |
| 機械事業 | 44,313 | 47,025 | 53,198 | 56,852 | 71,111 | 75,990 | 72,232 | 66,003 | 73,453 | 77,500 | 82,691 | 66,635 | 76,938 | 81,658 | 82,005 | 86,301 | 88,800 | | | | | | | | | | |
| - 機械部門 | 12,703 | 10,655 | 12,949 | 12,694 | 10,527 | 16,712 | 14,926 | 14,041 | 15,671 | 17,971 | 23,237 | 16,662 | 17,723 | 17,943 | 19,540 | 22,219 | 21,700 | | | | | | | | | | |
| - イクドリル部門 | 20,306 | 23,060 | 24,143 | 23,308 | 26,642 | 30,910 | 30,076 | 26,979 | 30,199 | 30,372 | 27,663 | 24,149 | 30,910 | 35,752 | 36,682 | 35,003 | 36,400 | | | | | | | | | | |
| - ニック部門 | 11,142 | 12,490 | 16,105 | 20,651 | 25,741 | 28,367 | 27,229 | 25,762 | 27,301 | 29,237 | 31,791 | 27,604 | 28,305 | 27,961 | 27,653 | 29,084 | 30,700 | | | | | | | | | | |
| 素材事業 | 62,128 | 92,203 | 77,917 | 68,026 | 90,162 | 93,270 | 85,644 | 78,968 | 69,967 | 92,722 | 79,366 | 88,203 | 118,163 | 126,604 | 100,388 | 108,797 | 97,700 | | | | | | | | | | |
| - 炭素部門 | 71,132 | 79,979 | 66,114 | 77,944 | 76,604 | 81,513 | 74,192 | 67,653 | 77,334 | 80,067 | 67,149 | 76,094 | 102,995 | 111,424 | 84,712 | 92,364 | 80,200 | | | | | | | | | | |
| - 子部門 | 9,969 | 7,147 | 4,615 | 4,967 | 5,301 | 5,743 | 5,477 | 5,616 | 6,307 | 6,527 | 5,506 | 5,744 | 7,271 | 6,936 | 6,766 | 6,545 | 7,600 | | | | | | | | | | |
| 不動産事業 | 5,025 | 5,076 | 5,107 | 5,093 | 6,096 | 6,013 | 5,973 | 5,286 | 6,344 | 6,127 | 6,710 | 6,367 | 7,856 | 8,454 | 8,900 | 9,827 | 9,900 | | | | | | | | | | |
| その他 | 2,043 | 1,577 | 1,233 | 1,050 | 1,013 | 2,535 | 3,045 | 3,074 | 3,330 | 2,999 | 2,306 | 2,107 | 2,115 | 2,056 | 1,073 | 2,071 | 2,100 | | | | | | | | | | |
| - 建設部門(※1) | 654 | 765 | 766 | 783 | 739 | 747 | 876 | 803 | 916 | 814 | 771 | 755 | 1,079 | 3,671 | 3,908 | 4,005 | 4,400 | | | | | | | | | | |
| - 燃料部門(※2) | 3,692 | 15,040 | 14,074 | 15,078 | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | | | | | | | | | | |
| 合計 | 142,925 | 165,630 | 157,366 | 165,539 | 163,026 | 172,544 | 161,799 | 149,829 | 167,695 | 174,116 | 165,215 | 159,702 | 199,097 | 214,190 | 186,255 | 201,216 | 193,000 | | | | | | | | | | |
| 【営業利益】 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 10年3月期 | 11年3月期 | 12年3月期 | 13年3月期 | 14年3月期 | 15年3月期 | 16年3月期 | 17年3月期 | 18年3月期 | 19年3月期 | 20年3月期 | 21年3月期 | 22年3月期 | 23年3月期 | 24年3月期 | 25年3月期 | 26年3月期(予想) | | | | | | | | | | |
| 機械事業 | △3,022 | △566 | 1,970 | 2,923 | 5,333 | 6,551 | 5,882 | 3,880 | 5,003 | 6,567 | 7,343 | 3,968 | 4,679 | 6,093 | 5,696 | 5,900 | 6,500 | | | | | | | | | | |
| - 機械部門 | 433 | △29 | 708 | 770 | 1,651 | 1,711 | 1,037 | 1,04 | 1,005 | 2,088 | 3,200 | 2,113 | 1,396 | 1,515 | 389 | 2,306 | 2,300 | | | | | | | | | | |
| - イクドリル部門 | △2,504 | △350 | 333 | △67 | 3,41 | 1,225 | 2,217 | 897 | 1,762 | 1,609 | 142 | △1,324 | 1,117 | 3,030 | 4,148 | 2,795 | 2,300 | | | | | | | | | | |
| - ニック部門 | △670 | △106 | 920 | 2,212 | 3,141 | 3,614 | 2,627 | 2,978 | 2,769 | 3,992 | 3,100 | 2,165 | 1,547 | 1,156 | 977 | 2,000 | | | | | | | | | | | |
| 素材事業 | 3,965 | 3,044 | 325 | 324 | 1,695 | 1,770 | 963 | 1,670 | 1,640 | 1,398 | 776 | 1,040 | 2,349 | 2,309 | 2,765 | 3,169 | 2,100 | | | | | | | | | | |
| - 炭素部門 | 3,224 | 1,494 | 300 | 282 | 1,503 | 1,449 | 1,154 | 1,730 | 867 | 551 | 301 | 499 | 940 | 1,276 | 1,845 | 2,418 | △1,300 | | | | | | | | | | |
| - 子部門 | 657 | 1,279 | △234 | △262 | △123 | 52 | △366 | 17 | 330 | 407 | △35 | 161 | 660 | 500 | 212 | 125 | 500 | | | | | | | | | | |
| 不動産事業 | 1,120 | 635 | 356 | 219 | △43 | 776 | 1,276 | 1,265 | 1,339 | 1,163 | 735 | 736 | 743 | 635 | 470 | 606 | 700 | | | | | | | | | | |
| その他 | △376 | △92 | △93 | △63 | △60 | △130 | △72 | △126 | △196 | △147 | △94 | △62 | 17 | △133 | △293 | 15 | 0 | | | | | | | | | | |
| - 建設部門(※1) | △19 | △93 | △329 | 68 | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | | | | | | | | | | |
| - 燃料部門(※2) | △29 | △58 | △13 | △20 | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | | | | | | | | | | |
| 合計 | △69 | △49 | △60 | △70 | △39 | △42 | △60 | △44 | △55 | △64 | △60 | △71 | △54 | △73 | △114 | △89 | △100 | | | | | | | | | | |
| 調整 | 1,597 | 2,821 | 2,154 | 3,363 | 6,686 | 6,925 | 7,960 | 6,345 | 7,820 | 6,915 | 6,693 | 5,592 | 7,734 | 9,031 | 6,524 | 9,763 | 7,000 | | | | | | | | | | |
| 【営業利益】 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 10年3月期 | 11年3月期 | 12年3月期 | 13年3月期 | 14年3月期 | 15年3月期 | 16年3月期 | 17年3月期 | 18年3月期 | 19年3月期 | 20年3月期 | 21年3月期 | 22年3月期 | 23年3月期 | 24年3月期 | 25年3月期 | 26年3月期(予想) | | | | | | | | | | |
| 機械事業 | 6,101 | 6,139 | 6,465 | 7,650 | 7,104 | 6,554 | 5,215 | 5,154 | 6,444 | 6,341 | 5,660 | 6,079 | 9,691 | 6,551 | 8,362 | 9,370 | 9,000 | | | | | | | | | | |
| 素材事業 | 92.05 | 65.71 | 79.07 | 83.10 | 100.24 | 109.93 | 120.13 | 106.42 | 110.05 | 110.91 | 100.74 | 106.06 | 112.30 | 135.47 | 144.62 | 152.57 | 145.00 | | | | | | | | | | |

33 ページから 35 ページは参考情報となりますので、後ほどご確認いただければと思います。

説明は以上となります。株主、投資家の皆様には、古河機械金属にどうぞご期待いただきますよう、今後ともよろしくお願ひ申し上げます。

質疑応答

柴田 [Q]：SBI 証券の柴田です。

一つ目が関税影響です。売上の輸出金額がそれなりに大きく、注力している機械事業なので、今のところ、お客様から実際に受注および輸出環境でネガティブな声が出ているのか、何かコメントがあれば。

二つ目が、32 ページ目の経営理念体系の見直しと次期中計ですが、機械事業を成長コアとする基本方針は理解できた一方で、売上で依然として大きい金属事業の今後の在り方で、何かコメントできるところがあれば、考えを聞かせてほしい。

中戸川 [A]：まず、関税の影響ですが、先ほどもご説明したとおり、ロックドリル部門が一番大きな影響を受けます。ただ、足元を見ると、今後の関税のアップで売価が上がるのではないかとということで、主力の油圧クローラドリルはかなり引き合いがあると聞いております。

また、資料にもありますが、競合メーカーとしてはヨーロッパのエピロックが最大ですが、彼らも、私どもも、米国に工場はありません。現状では EU は 20%、日本は 24%ですが、そのぐらいの差であれば問題なく販売はできるのではないかと考えていますし、申し上げたとおり、米国の不透明さが一番心配なところではあります。

また、次期中計ですが、今後、事業ポートフォリオをどう考えるかということも含めて検討していくこととなります。ただ、それぞれの事業もいろいろ関係先、また社員等ありますので、それらを見ながら行っていきます。やはり稼ぐ力をいかに高めていくかということが重要だと思っていますので、そこによくフォーカスをして戦略を練っていきたいと考えています。

柴田 [Q]：稼ぐ力というのは、利益の絶対金額というよりも資本効率とか、利益率とか、その観点からも検討ということですか。

中戸川 [A]：そうです。いろんな事業部門で、製品ごとに利益面で貢献できるかどうか、原価がどうなのか、製造原価はどうか、効率性はどうかということがあるので、そこをしっかりと見ながら選択していきたいと思います。場合によれば、それを補完する M&A でもあれば、それも実行していきたいと考えています。